



赤羽別院報 第47号
 発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
 Tel・FAX (0563) 72-2308
 Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

なんまんだぶつ



南無阿弥陀仏の仏法

親鸞聖人のおみのり・お念仏の教えは、どういう教えか解らなくても「なんまんだぶつ」の仏法だということは、はっきりしているんじゃないでしょうか。

真宗ってどんな教えかと聞かれたら「南無阿弥陀仏」の仏法だ。そこから始まる訳で、皆我輩深先生はそのことを言いつづけた先生です。始めに行あり・始めに南無阿弥陀仏ありと。いつも「なんまんだぶつ」と称えておられました。

「首我先生と言はば、えらい難しいことを仰しやる先生と、思われるかも知れませんが、真宗の原意は「なんまんだぶつ」と申していかれました。

五木寛之氏の表現

今から20年程前の蓮如上人の五百回御遠忌のときに、作家の五木寛之さんが「お念仏のおみのりは3人の方によって私たちのところに届けられる

や仏さまの教えにはこのように教えられています。「大無量寿経」の中に「死を求むるに得ず。生を求むるに得ず。」という言葉があります。これは「死ぬに死ねない」といえる生きられない」といえる思いではないでしょうか。

この思いを破る道(まじこ)が明らかになったときに、本当の意味で生涯を尽くしていただけるのです。このことをやさしく「念仏申せ」とか一言に込めて教え続けてくださった方が法然上人です。

苦勞によって、私たちのところまで届けられたのがお念仏のおみのりだ。そして、3人の方がそれぞれなさったお仕事を現に表現されました。法然上人は「大事な事をやさしく」行うことを教えた人。親鸞聖人は「やさしい事を深く」究めようとした人。蓮如上人は「深い事を広く」伝えようとする力を含めて生き抜いた人。これは見事な表現で、今でも私はこの3人と言はば、このお言葉が出てきます。

大事な事をやさしく
 法然上人は、大事な事をやさしく行うことを教えた人です。蓮如上人は、深い事を広く伝えようとする力を含めて生き抜いた人。これは見事な表現で、今でも私はこの3人と言はば、このお言葉が出てきます。

道というものは、真とか方法とか手立てで、これによって迷いから出られる。そういう手立てが明らかになることが大事な事であると、法然上人や仏さまの教えにはこのように教えられています。「大無量寿経」の中に「死を求むるに得ず。生を求むるに得ず。」という言葉があります。これは「死ぬに死ねない」といえる生きられない」といえる思いではないでしょうか。

中では聖人は「なんまんだぶつ」とは一体何なのかを、徹底して究めていく以外には進めなかったのです。

止めることはできない。救いを得た訳だから捨てることもできない。かといってジツジツともできない。また、前へ進むこともできない。そういう中で、お念仏とは何かという問いを、越後にいた5年間に徹底して学び直された。

「且く疑問を至して、遂に明証を出だす。この言葉にそのときに聖人が抱かれた、よるごびを開いてきた念仏とは何なのかを、自身ではっきりしないことには一歩も進めない」という胸の内が伺えます。

そのことを通して聖人は、法然上人の教え「念仏の心」を明らかにされたのです。どのように明らかにされたのか。その中心を私はこう戴いておきます。

お念仏申すという「ことば」は「なんまんだぶつ」にまでなつてくださった。念仏さまの心を戴いていくことだ。「なんまんだぶつ」一だけは、意味が解らなくても称えられてきたお言葉なのです。

そのことが解っているかないにか関わらず、お念仏を申すところに仏さまの心が戴かれていったということではなんでしょうか。そのことを

■講師プロフィール
 廣瀬 惺(ひろせ じやう)
 1946(昭和21)年 岐阜県生まれ
 大谷大学大学院 博士課程満期退学
 現 同朋大学特任教授 大垣教区・妙輪寺 住職
 著書「御文聞記」他
 「仏説阿弥陀經に学ぶ」他

聖人は明らかにしてくださった。念仏とは、本願(仏さまの心)が教えを縁として、私たちに「南無阿弥陀仏」と名を呼り出してくださった出来事であり、その念仏を称えるところに、自ずから本願が掲げられることとなり、本願が開いてくださる世界(浄土)が未来となって、行き詰まりのない生活に恵まれるのです。これが「なんまんだぶつ」だと私は戴いております。



深い事を広く

蓮如上人は「深い事を広く伝えんがために生き抜いた人でした。どうでもよいことはすぐに払がりますが、「深い」というのは中々払がらない。そのことを広く伝えようと、渾身の力を込めて生き抜いた人が蓮如上人です。

伝えるには、まず、自分がはつきりと戴かなければなりません。自らがはつきりする。そして人々に伝える。

これを「真宗再興」と言われております。再び興す。親鸞聖人が亡くなられて一五四年後に生まれた蓮如上人が、年々から聖人のおみのりを再興しようとして、ご自身の生涯の仕事としての決意なのです。

「なんまんだぶつ」に生きる
 蓮如上人は、百のものを十に、十のものは一につづめて、誰にでも「信」が得られるように「御文」を書かれました。最も親しまれている「未代

無智の御文」は、本願に生きる。仏さまの心に生きるといふ生活を閉こうとして著してくださったのです。

では、仏さまの心はどのようにして私たちの生きる力になつていくのでしょうか。誰にでも働きかけてくださる仏さまの心。この本願は、教えを聴く縁を通して、私たちの上に念仏申す心となって開かれてくるのです。

そのとき、初めて仏さまの心が私たちの生きる力となつてくださり、現れてくださる。仏さまの姿が「なんまんだぶつ」というお念仏なのです。

ですから、探して見つかるものではなく、教えを聴いている間に仏さまの心が、私の上に念仏申すにはいられない心となつてくる。それが仏さまのお姿なのです。

私の上に念仏申す心が開かれてきたときに「誰かが仏さまの心を戴いているのだ」ということが明らかになってくる訳です。このことを「信心」といいます。

私たちの世界は、生から死へ行き詰まりの未来です。そんな私たちに「なんまんだぶつ」といふ、生死を超えた世界を開き続けてくださる。「なんまんだぶつ」に生きるということ。これは「なんまんだぶつ」が開いてくださる世界を未来として生きるといふことです。

この心をおこすのは仏さまの働きですから、いつおこされてもおかしくないけど、準備しておかねばならない。それは聴聞だと蓮如上人は仰っておられる。仏法は、聴聞に極まるということなのです。

平成27年度(同28年1~3月)
 赤羽別院・真宗講座
 テーマ「御文に学ぶ」
 廣瀬 惺 師講話要旨

別院行事の「案内」
 声明研鑽会 しょうみよつげんさんかい
 7月7日(木) 午後7時
 8月4日(木) 午後7時
 9月1日(木) 午後7時
 講師 第8組 宿禰寺 織田 顕慶師

夏の御文げのおふみ
 7月15日(金) 午後1時30分
 法話 第8組 福正寺 本多 友明師

赤羽ブロック世話方会
 7月15日(金) 夏の御文終了後

暁天講座 ぎょうてんこうざ
 8月25日(木) 午前6時
 8月26日(金) 午前6時
 講師 第16組 本證寺 小山 正文師

秋季彼岸会 しゅうきびがんえ
 9月21日(水) 午後1時30分
 法話 第11組 聖運寺 泉 敬祐師
 9月22日(木) 午後1時30分
 法話 第18組 福万寺 北野 隆之師

報恩講・ご門徒お勤めの稽古
 9月24日(土) 午後1時30分
 10月8日(土) 午後1時30分
 講師 第12組 玉照寺 小栗 貫次師

報恩講 ほうおんこう
 10月14日(金) 午後1時30分
 法話 第10組 嚴西寺 藤原 肇師
 10月15日(土) 午前10時・午後1時
 法話 四日市市淨園寺 大賀 光範師
 10月16日(日) 午前10時・午後1時
 法話 第17組 正法寺 山崎 秀健師

晨朝法話 じんじょうほうわ(午前7時)
 7月13日(水) 第10組 嚴西寺 藤原 肇師
 7月28日(木) 同 明泉寺 御詠 諒師
 8月13日(土) 第11組 善福寺 山崎 隆文師
 8月28日(日) 同 正念寺 平野 眞師
 9月13日(火) 第12組 德行寺 山下 正敏師
 9月28日(水) 同 願海寺 豊郷 証宣師

世話方さんを探しています!
 どなたかお手伝いいただけませんか?
 自薦・他薦歓迎お待ちしております。
 詳しいことは赤羽別院
 電話 〇五六三二一三〇八まで

15名の仏弟子誕生 鍵役による「おかみそり」



桜の花びらがひらひらと舞い、釈尊御誕生を彷彿させる4月11日、赤羽別院では今年も帰敬式が執行された。

3月28日に行われた事前研修・帰敬のついでに「おかみそり」の意義を確かめるとともに、受式者がその意識を共有することを目的として行われ、既に受式された方から感話を聞き、おかみそりを判的的なものにしないうで、積極的に法名を名告ることを願った。

当日は、4組のご夫婦をはじめ15名が受式され、念珠を手し、揃いの肩衣を着て、緊張のなかにも晴れやかな表情で御本尊前に着座された。

鍵役・信悟院殿ご出仕により、真宗宗歌・三師依文唱和に続いて「剃刀の儀」が執行された。

姿勢を正し、御本尊を仰ぎ、合掌のままで剃刀を受け、仏弟子としての決意を感じさせる崇高な法名を名告る。その後、鍵役執行の辞では、新たに仏弟子となった皆さんへのお祝いの言葉が述べられ、続く法名伝達では一人ひとりに「おめでとうございませう」と声をかけながら「法名」が手渡された。

最後に、第9組・正向寺門徒の小笠原弘美氏より、「帰敬式を受け、これからは朝夕のお勤めを

生活の基本とし、お寺や真宗本廟に身をまかせ、日々聞法に励みます。」と、受式者を代表して誓いの辞が述べられた。

式後のお齋で「食前・食後のことば」を大きな声で唱和された受式者の一人は、お剃刀を受けた時の緊張感を「50年程前の結婚式以来」と表現されたが、その笑顔には満足感がみまわっていた。



小笠原氏・誓いの辞

東本願寺平成の大修復完了

阿弥陀堂還座式厳修

宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌特別記念事業として、平成16年に着手された「東本願寺の平成の大修復」は、12年の歳月を経て無事完了、3月31日に還座式が営まれました。

工事は、明治26年に建立された百年余の経年劣化した御影堂・阿弥陀堂及び御影堂門の屋根の葺替や、損傷腐朽箇所修復と耐震補強工事を併せて施工するものです。

工事は二期に分けて行われ、第一期で世界最大の木造建築で「都富士」と称された御影堂の屋根の葺替等が、平成20年に完了しました。

工事は一旦中断され、平成23年に宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要が厳修されましたが、この年に発生した東日本大震災に鑑み、御門首はじめ出仕者全員



御修復を了えた阿弥陀堂

が外陣に着座し、雅楽・稚児行列等を中止し、質素に厳修されたが、全国からの参拝ご同行が境内に溢れ、割れんばかりの声明の声とともに円成しました。

平成24年に再開した第二期工事では、御影堂門と阿弥陀堂の修復を行い、12年に及ぶ東本願寺の大修復は無事に全ての工事に戻されました。

安置が整うまでの40分間金障子が閉扉され、この間の池田勇諦師の記念講話「御本尊・阿弥陀仏は善誓仏」では、人力が頼りの明治の時代に献身的努力で、両堂並びに山門を再建された先人のご苦労と、報謝の篤い心に触れるお話が胸に迫る還座式でありました。

金障子閉扉後、御門首の焼香に続いて「仏説阿弥陀經」がお勤めされ、東本願寺は見事に都富士の姿に戻りました。

伊奈恵祐師の法話 報徳会を厳修

4月11日、帰敬式を了えお齋をご馳走になった後、鍵役信悟院殿の御参修のもと、法話講師には第8組安樂寺副住職・伊奈恵祐師をお招きして報徳会が厳修された。

本山堂衆をはじめ14名の僧侶による加配の声は力強く、報徳会の法要の重さを感じさせるものがあり、鍵役は「法名は亡くなつてからではなく、生きていく私たちの上に戴くもので、今、人生二度目の出発点に立ったとこそです。」と述べられた。

伊奈師は、赤羽別院で誕生した15名の仏さんのうぶ声が聞えたと話された。

そして、和田桐師の「生活の中で念仏するのではなく、念仏の上に生活がいとなまれ」を取りあげ、私たちは普段、念仏と生活が一緒にならないうのが常であるが、念仏と生活は一枚の紙のようなものであり、表と裏はあるが一つのものであると話された。



笑顔で語りかける伊奈師

武田定光師の法話 殉教記念法要を厳修

大浜騒動といわれ「宗風にあるまじき行為」として、明治新政府の方針に異を唱え処刑された、三河の青年僧・石川台彌師をはじめ40名の護法有志を偲びつつ顕彰し、その精神を学ぶ殉教記念法要が6月6日に厳修された。

この法要は大正14年に起源し、殉教記念会主催のもと毎年行われてきた。

この日は、本山鍵役・信教院殿御参修のもと、午前中に「護法有志墓」が建立されている、台彌師所縁の安城市小川町の通泉寺並びに、西尾市荻町にある「殉教記念碑」前において法要が営まれた。

殉教記念碑は、地元の方々のご懇念により管理されており、この日も大勢の参拝者を丁寧に迎えていた。

午後は、会所を赤羽別院に十三回忌法要がお勤めされたこと、別院となつて一三八年目にして初となる、御門首御大院の善を得たのである、この大法要御親修には、近隣の人々は言うに及ばず、遠方よりおびただしい数の門信徒が訪れ、本堂内はもとより、境内も参拝者で埋めつくされた。この場に拝席できた人々の大の思い出となり、冥土へのみやげ話になると喜んだ。

一寄進！山門建立

もう一つは、この年に地元信門徒・杉浦米吉氏により「山門一寄進」の申し出がなされたこと。

杉浦米吉氏自筆の銘文「支那事変、彼我(か)が戦病死者皆佛道に入れしめんが為なり」と刻まれている。

また、この山門は建立されて以来、仏様が安置されていない殺山門となっていたが、平成22年、二度目となる現第二十五世門首・淨如上人親親修による、報恩講並びに親鸞聖人七五〇回御遠忌お持ち受け法要を機に、二名の篤信家のご懇念により、釈迦如来像及び脇侍として多聞天と弥勒菩薩像の三尊像が鎮座された。



赤羽別院の歴史 その6

明治新政府が打ち出した新政策・廃仏毀釈、即ち、神教上位の世相となり、仏教に対する風当たりは強く、耐乏を強いられる時代を迎えた。

このなかで、明治22年9月11日、暴風雨による大津波が三河湾沿岸を襲った。一色地区では、赤羽別院周辺の低地の家屋の殆んどが流出し、百六十名余が落命する大惨事となった。

赤羽別院においても、太鼓櫓(茶所)の倒壊をはじめ、大広間(講堂)の屋根等に被害が発生し、周辺地域全体がこの災害から立ち直るのに10年余の永い歳月を要する程の出来事であった。

そして、この間の明治27年に第二十一世門首・当代院住職の殿上人(蓮如上人の諡号)が慧燈大師(蓮如上人の諡号)四〇〇回忌法要厳修予定の3年前から、損壊した大広間等の修理等の準備が進められた。このようにして、災害の傷跡が癒えた地元住民と赤羽別

院は、明治35年5月、三河の真宗寺院の総力を結集して、三日間に亘り大法要を厳修し、地元にもより、遠方からの参拝者も多く、これまでにない盛大な法要となった。

大正の時代には軍政が芽生え、念仏忌避に等しい規約の制定・公布等、仏教への規制を強いる目、目立たし行事等はできない世の中となった。

昭和の初期には次第に軍事色が濃くなり、普段の世の中の流れも「死して神一等の時代へと移り変わった。

廃仏毀釈を問われることはないとはいえず、寺院では地味な宗教活動に徹し、神一等の風潮にさからうことなく、ひたすら静閑の時代となった。

このようにして、仏教が低迷するなかで、昭和11年に赤羽別院には二つの慶ばしい出来事がおこった。



威容を誇る山門

初は、第二十三世門首・赤羽別院住職・彰如上人御親修により、前二十二世門首・赤羽別院住職・現如上人の

崇敬寺院がお勤めする 宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要



戦後七十年物故者 感謝法要を併せ厳修

第8組
安樂寺



お彼岸が過ぎ、桜の蕾が開き始めた3月26・27日の両日、第8組安樂寺(住職・伊奈祐祐師)では、二つの記念すべき大法要が、厳かに執行された。

初日には、戦後70年物故者感謝法要がお勤めされ、戦死された方や、戦後の貧困から今日の日本の繁栄を築き上げた先祖に対する感謝の念と申意を顕すもので、参拝者が本堂に溢れる賑やかな法要となった。

お勤めの後、安樂寺との縁りが深い4名の方々から、終戦から今日に到るまでの故事や、安樂寺とのかわり等についての懐かしい思い出話を伺った。

続いて、安樂寺寄席では、薩摩琵琶の弾き語り・落語・大神楽が披露され、室内は笑い声と拍手に沸きあふれるひと時を過ごした。

二日目の27日には、親鸞聖人750回御遠忌法要が、聖人入りに飾りつけられ、前日に続いて同寺ご出身の村黨師の法話を拝聴した。

結願日中での稚児行列には、三二〇名余の稚児と家族が参列し、だんご・ぜんまいなどがあつた。

会館・庫裡再建 落慶法要を併せ厳修

第12組
蓮光寺

4月24日、西尾市鎌谷建立後百三十年余が経過町の蓮光寺において、親しく、本格的な再建落慶法要が執り行われ、宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要が併せ、関係者一同が待望していた「会館・庫裡再建落慶法要」が厳修された。

午前中には、待望された「会館・庫裡再建落慶法要」が厳修された。長年の悲願である会館庫裡落成をこころにも早く迎えられた喜びと、実現した法要のお勤めの後、にむけて深いご理解の稚児行列には二五三名の稚児が家族共々参列し、た門信徒への感謝の念を声に包まれた。

午後には、宗祖聖人の御遠忌法要では、松平組・法興寺鈴木見業師が法話の中で、師自身が「さむらい」の道は険しい坂であるも、一人一人の宿業で泣いた涙の下から、笑顔を咲かすことができる、蓮光寺の会館庫裡は、



赤羽ブロック世話方会研修会実施

赤羽ブロック世話方会の第一回目となる研修会が、去る6月2日に実施された。

今回の研修は会員相互の親睦を兼ねての現地視察であり、別院関係者を合わせた一行41名は、大型バスで滋賀県長浜別院大講寺に、約四百年の歴史と七千坪の境内を擁し、湖北地方の教化の拠点として今日に至っている。

大広間・襖絵や伊吹山を借景とした庭園などの諸殿を拝観し、別院護持運営委員会の中村会長より「教別一体」の運営体制についてのお話を伺った。

崇敬区の各組から選出された14名の委員と直参門徒が連携して別院行事に当り、年2回の清掃奉仕には二百名

お寺の元気塾・赤羽別院で開催

岡崎教区が本山業務所と共催し、一般社団法人「お寺の未来」と協働して展開するお寺の元気塾の第3回が、4月14日赤羽別院において開かれた。

別院のお寺離れ、お寺の門徒離れ等、お寺を取りまく環境が激しく変化しているなか、お寺から発信される寺報やホームページによる情報、「見る人・聴く人」に届いていない現状に、お寺の元気塾は、お寺の門徒が、お寺の未来を、お寺の発展に、お寺の活性化に、お寺の多様なニーズに対応する必要性が生じた。

意見交換も兼ね、お寺の元気塾は、お寺の門徒が、お寺の未来を、お寺の発展に、お寺の活性化に、お寺の多様なニーズに対応する必要性が生じた。

意図を聞くことも大事だが、明確なモノが求められる時代において、「お寺と浄土真宗の教え」とは、どういった場所な痛感した次第です。



勉強会のようす

帰敬式を受式して 第10組 藤野西門徒

佐藤 哲也

法名は亡くなったから戴くものと思っていたが、昨年手次寺の副総代を仰せつかったこともあり、去る4月11日、赤羽別院で帰敬式を受式しました。

生きて「今」受式する事に意義があるという、今日からお釈迦様の弟子として、新たなスタートができた事に感謝しています。

鐘役様のお話に「これまでも、これからを決める」ではなく「これからが、これまでを決める」の言葉に深く感銘し、生ある限り仏弟子として「仏・法・僧」の三宝に帰依し、真宗門徒として、新たな人生を歩いて行こうと誓いました。

お釈り受けて極楽 春法会 合掌

の参加があるなど結末の強さを感じさせる。

屋敷後は、近角常観ゆかりの真宗大谷派・西源寺を訪ねた。

常観師は、明治時代東京・本郷に求道学舎を創設し、清沢満之とともに多くの人材を育てた人物である。

西源寺は現在無住のため25余の門徒が護持をされている。

丁寧なご接待に感謝し、暫し、常観師を偲び寺を後にした。

- ### 夏の勉強会のお知らせ
- ◇第8組 同朋大会・青壮年の集い 8月20日(土)午後7時30分 西浅井町 宿縁寺
 - ◇第9組 夏期講習会 8月26日(金)午前9時30分 幡豆町東藤豆 福泉寺
 - ◇第10組 大谷大学教授 水島 見一師 8月27日(土)午前9時30分 午後1時
 - ◇第11組 有隣寺 祖父江佳乃師 各日共 午前5時30分
 - ◇第12組 浄賢寺 8月17日(水)午後1時30分
 - ◇第13組 随願寺 安藤誠也師 8月18日(木)聖運寺
 - ◇第14組 不遠寺 四衛 亮師 8月19日(金)恵教寺
 - ◇第15組 伊勢研思師 第20組 称念寺

- 8月20日(土) 惠琳寺
- 8月21日(日) 善福寺 伊奈恵祐師
- 8月22日(月) 蓮成寺 青木一範師
- 8月23日(火) 唯法寺
- 8月24日(水) 徳行寺 山下正敏師
- 8月25日(木) 正念寺
- 8月26日(金) 普元寺 西脇眞真師
- 8月27日(土) 常照寺
- 8月28日(日) 水山行信師
- 8月29日(月) 本證寺 小山園師
- 8月30日(火) 本證寺 小山園師
- 8月31日(水) 無量寺 伊勢市 西寺真也師
- 8月1日(木) 無量寺 伊勢市 西寺真也師
- 8月2日(金) 加藤久晴師 東海市 加藤久晴師
- 8月3日(土) 夏期真宗講座 8月20日(土)午後1時30分 行用町 本誓寺
- ◇第13組 養蓮寺 中村 薫師 7月11日(火)午後1時30分
- ◇第14組 夏期真宗講座 7月12日(火)午後1時30分 一色町木島 教榮寺
- ◇第15組 常讚寺 藤野 俊基師 金沢市

オフィスの総合プランを提案する

OA機器・事務用品
文具・オフィス家具
印章・ギフト商品

カミヤ事務器 株式会社

西尾市吉良町富好新田役地28-4
TEL(0563)32-2127 FAX(0563)32-2128
http://www.kjkamiya.co.jp/

納骨墓(合祀墓)
納骨棚、法名碑付き
合祀納骨スペースあり

永代墓・合祀墓 設計施工承ります

みどりストーン

碧南市池下町4丁目18番
TEL: 0566-46-4114
FAX: 0566-46-4115

うなぎ割烹

三水亭

みかわ

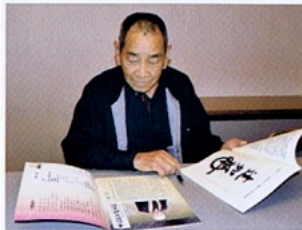
電話 0120-718-819
西尾市一色町坂田新田
http://www.mikawasuisankakou.jp

人間模様 7/6

赤羽別院にお参りする、何時も忙しそうに「奉仕下さる姿をお見掛け、隠れ妙好人で赤羽別院の生引きを訪ね、83年の今日までの人生を、常に赤羽別院との関わりの中で生きてこられた、貴重な体験談などを伺った。

赤羽別院との出会い? 小さい頃からの遊び場でした。今だから言えますが、旧本堂の屋根の反りは見かけ以上に大きく、棟下から滑り降りても途中で止まり、落ちることはありませんでした。 20歳で自動車の運転免許を取

先ず、昭和20年の三河地震です。20棟以上あった諸堂宇が、残念ながら本堂と山門及び一部の建物を残し、その殆んどが倒壊しました。当時、私は国民学校(現在の小学校)の児童で交代したが、中・高学年の生徒が交えて片付作業を手伝ったことを思い出します。 赤羽別院と深い繋がりを持ったきっかけ?



自費出版本を手語る三矢氏

福島の子と花まつり



区連盟 3月31日、岡崎教区児童教化連盟主催による「花まつり」が三河別院において開催された。

赤羽別院崇敬区からは第14組の親子45名と、東日本大震災により原子力発電所の漏洩放射能に被曝し、保育事業で同組「報恩寺」(住職・石川勇吉師)に滞在中の1家族2名が参加した。



瓦礫の撤去作業

花まつりは「ちかいのこ」として「はるかなる、正信偈のおとめ」が大人よりも子どもたちの声で大きくなり、頼もしい歌を唄い、ゲームで盛り上がったところで、お祭りの劇団「そらのゆめ」の芝居が始まり、皆が夢の中に、割れんばかりの声で、本堂いばいに響きわたった。

被災地熊本を訪ねる 「熊本地震」発生からひと月が経過した5月16日、18日、教区内の若手僧侶3名が被災地を訪ねた。一行は熊本教務所に現地地の被害状況の聞き取りをし、炊き出しや瓦礫撤去等の支援活動に従事した。



俳句会の様子

第3回赤羽御坊俳句会開催

若葉の緑が日毎にその色を増す 4月18日、3回目となる赤羽御坊俳句会が開催されました。参加者はペンを手にし、思い思いに境内のあちこちを散策して句詠みし、全投句54句を作筆を伏せて全員で選句の結果、最高位の中村好児氏をはじめ、15名の方々に記念品等が贈られ頭彩されました。

第3回赤羽御坊俳句会優秀作品 門徒会長賞 菩提樹は、門首お手植え 木の井風 中村 好見 輪 松 賞 花穂めく 牡丹桜に 風やさし 花枝の 羽音の近し 棚の下 親鸞の 空を自在に つけくらめ 桜葉 降るひびくも 春深し 八脚の 聴く堂裏や 春深し 樓門凛々し 燕来る 鐘楼の 撞木に 迷ひ蝶 句座開く 今日満開の 八重桜 白銀本 山門高し 春の雲 白蝶も遊ぶ 法の庭 松葉の花 苞をかぶせて 天を指す 桐桐の花 苞をかぶせて 天を指す 柳の締切は 8月10日(水)です。奮って応募下さい。

編集室 5年前に発生した東北地震の復興もまだならぬ4月14日、熊本市附近を中心とする大規模地震が発生しました。 これまでに類をみない多数の余震と併せ、大雨による土砂災害で未だに行方不明者があるなかで、家族・親族や友人知人を見失った方々、住場所を失った方々の悲しみを思うと、また、これからはじまる復興への永い道のりを考えるとき、只た頭が下がる思いです。

崇敬寺院の新住職

第14組・光輪寺 高木 真師 平成28年4月28日就任 (ひとこと) このたび、真宗本願御影堂・親鸞聖人御真影の前にて、住職に任命され光輪寺住職を継承いたしました。寺族・ご門徒の皆様方を合わせ、寺門の興隆発展のため尽力し、皆様にご愛される寺を目指して努めて参りたく存じます。合掌

春季彼岸会厳修

3月20・21日の両日、別院では春季彼岸会が厳修された。法話には、初日に第14組専興寺坊主・浅野眞理子師、二日目は六ツ美組本光寺・稻前恵文師をお迎えし、貴重な平安を拝聴した。江門時代に年中行事として定着した大切な御仏事であるが、年々参拝者が減少しており、伝統のある法会の今後が憂慮される状況におかれている。

訃報

小谷 千鶴子様 第13組・明榮寺前坊主 平成28年4月10日御命終 享年 91歳 竹内 馨様 第13組・榮蓮寺住職 平成28年5月19日御命終 享年 83歳 訃報 死があるというものが、生に無限の意義を与えている 第十三組 本浄寺